



# 住宅用火災警報器 寿命は約10年です！



住宅用火災警報器が、平成23年6月1日にすべての住宅への設置が義務化されてから令和3年6月1日で10年が経過しました。住宅用火災警報器は、一般的には電池で動いています。火災を感知するために常に作動しており、その電池や電子部品の寿命の目安は約**10年**とされています。

住宅用火災警報器は、かけがえのない家族の命や大切な財産を守る重要な役割を果たしています。「いざ」というときに適切に作動するよう、定期的に作動確認および本体の交換を行い、住宅用火災警報器の正しい維持管理を習慣づけましょう。



編集 / 薩摩川内市消防局予防課 <http://www.satsumasendai-fd.jp>

薩摩川内市消防局

検索

## 住宅用火災警報器を チェックしてみましょう！

### 確認

製造年月や設置した時に記入した設置年月を確認しましょう。**10年を経過**しているか**10年未満**かがポイントです！

〈記載場所例〉

本体裏面



製造年月 2011.06

本体側面



2011年6月設置

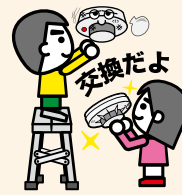
※記載場所はメーカーや製品によって異なります。

10年経過

10年未満

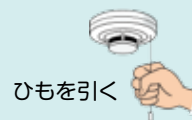
### 交換

交換の目安は10年です。10年を経過すると、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。



### 点検

点検ボタンを押すかひもを引っ張り、定期的に作動確認をしましょう。警報器に反応がなければ、故障か電池切れです。警報器の本体または電池を交換しましょう。



**正常な場合**  
「ピーピーピー火事です」  
「正常です」など。

**電池切れや故障の場合**  
「ピッ 電池切れです」  
「ピッピッピッ 故障です」など。

※電池切れが故障が分からないときは、取扱説明書を確認するか、メーカーにお問い合わせください。

平成29年から令和元年までの3年間に発生した全国の住宅火災について、住宅用火災警報器を設置していた場合は、設置していない住宅火災の死者数が約50%減少という結果が出ています。設置することで、早期に火災に気づき避難することができます。

### 住宅火災100件当たりの死者数

(平成29年～令和元年)

